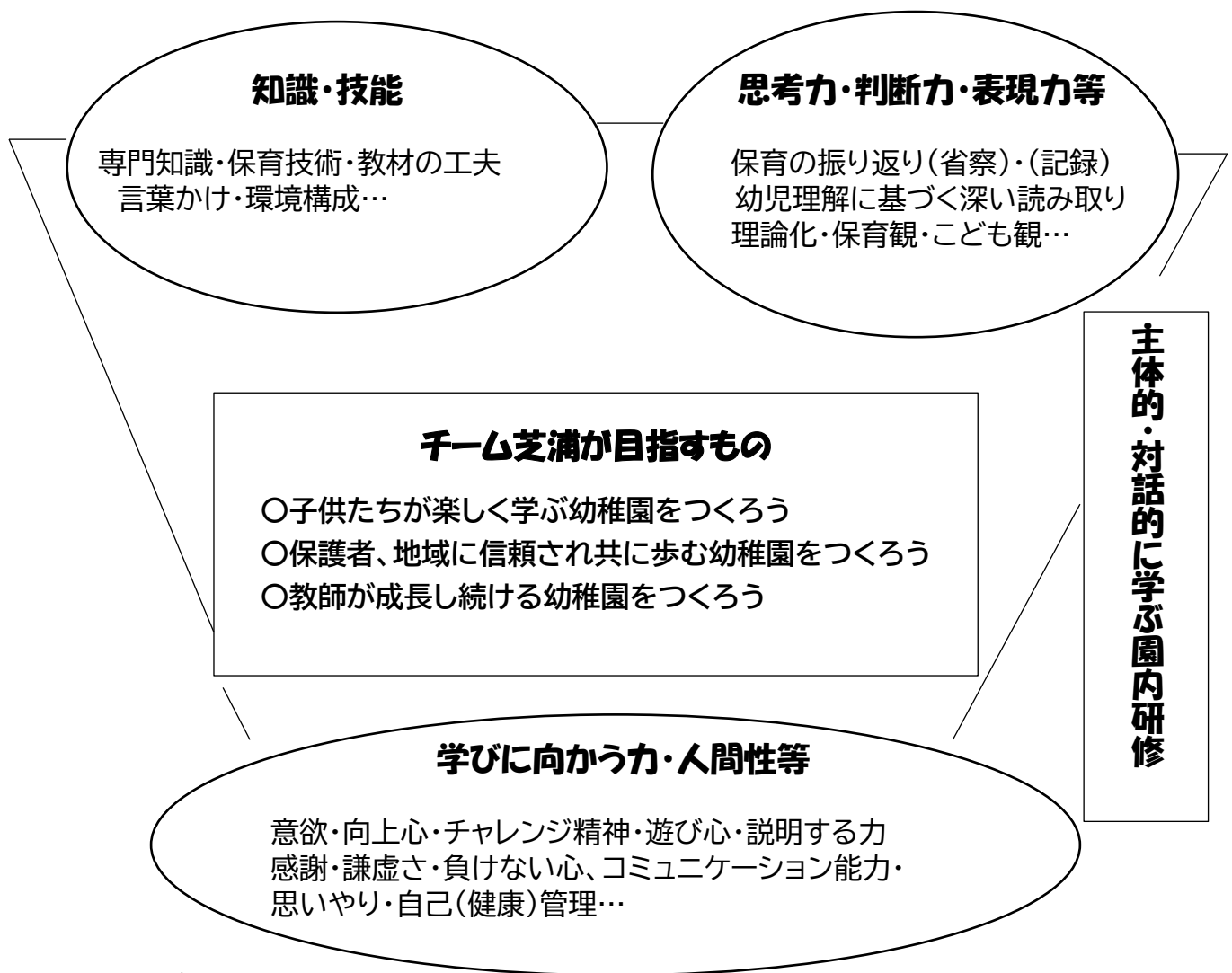


● 目指す教師像 チーム芝浦



● 中期的経営目標と方策

(1) 社会に開かれた教育課程の充実

- ・保護者、地域とともにある幼稚園として、連携、協働を図りながら、「生きる力」育む教育を充実させる。
- ・保護者や地域の人との関わりや、地域の教育資源を活用するとともに、近隣の小学校、中学校、保育所との交流を通して、人への親しみや地域への愛着、感謝の気持ちをもてるようにする。

(2) 小学校入学前教育の充実と小学校への接続

- ・小学校入学前教育の充実を図るために、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を目指し、教育活動を実施する。
- ・自分のことを自分でしようとする意欲を大切にし、健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣や態度を身に付けさせる。また、集団生活の中で必要な約束やきまりがあることに気づき、考えて行動する力を育てる。**主体性** **協働性**
- ・幼児の自発的な遊びの充実と教師の意図的な援助を通して、十分に体を動かし活動意欲を満足させる経験を積み重ね、丈夫な体づくりと体力向上を図る。
- ・多様な人との関わりをとおして、様々な感情を体験させ、思いやりの気持ちや自律心を育てる。また、一人ひとりの違いやよさに気づき、互いに認め合う態度を育てる。**多様性**

(3) 特色・魅力ある幼稚園教育の推進

- ・「ニコニコタイム」や「パワーアップタイム」「運河探検」など特色ある教育活動を通じて教師が
幼児の発達段階に適した教材や指導方法を学び合い、実践的指導力と教師としての資質の
向上を図る。
- ・園内や地域の自然や人との関わりを遊びや生活に活かし、直接体験を通して豊かな感性を育
む。(地域への愛着・人との関わり、動植物との関わり、食育活動、絵本の読み聞かせなど)

●短期的経営目標と方策(今年度の重点的な取組)

幼児の自発的な活動としての遊びや生活の中での豊かな経験を通して、資質・能力が育まれる。
一人一人の思いや考えを大切に、幼児同士の温かな関係を育み、育ち合っていくためにはどの
ような保育が必要か。また、幼児は遊びや生活の中で、何をどのように学び、何が育ったかを、保
護者や地域、他校種の教員等にも分かりやすく説明する力や可視化の工夫が必要である。園全
体の教育内容を、教員一人一人が自分のこととして振り返り、皆でもっと芝浦幼稚園の教育をよ
くしていこうというチーム意識を高めていく。

- (1) 教師一人一人がカリキュラムマネジメント(PDCA)を的確に行い、
保育のセンスと技術を磨き、保育の質の向上を図る

教え方や学び方の質をどう転換させるか

「何ができるようになるか」(資質・能力)

そのためには「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」

「子ども一人一人の発達を、どのように支援するのか」

その結果「何が身に付いたのか」更に「改善のための方策は何か」

教師一人一人が自分のよさ、得意なことを生かして保育を行い充実させる。「遊びの中の学び」を
見極める感性と専門性を磨き、教師一人一人の資質向上を図る。

- (2) 幼児が自分で気付いて行動する、学びの多い遊びや生活の実現

「自分で気付いて行動する幼児を育てる ―幼児が思いを実現させるために―」は、
今年度、区研究奨励園として取り組んでいるテーマである。

研究を進める中で、幼児が周囲の状況に関わり、自分で感じたり動いたりする楽しさや意欲を高め、
自分の力で行動する力を育み満足感を味わえる保育について学び、教師自身の実践力につなげて
いってほしい。

- (3) 幼児の感動体験につながる魅力的な環境づくり

可動遊具の質と数、自然環境、絵本環境の整備

幼児がワクワクした気持ちで思わず体と心が動く環境、幼児の発見や感動につながる豊かな体験
ができる環境づくりをする。当然のことながら、危険箇所や危険な遊び方をしていることはすぐに改
善し、安全安心第一を目指す。自然や教材など各担当の教師が中心となって、皆で自由に意見を
出し合い、幼児にとって魅力的な環境の工夫を進めていく。また、幼児の見方・考え方を豊かで確
かな学びにつなげていくために、十分な時間、空間、仲間が必要である。しかし実際の保育では、活
動に追われ余裕のない実態もある。課題や行事について、幼児が主体的に取り組めるものなのか、

指導内容や時間配分は適切か、組織的、計画的な教育活動の見直しと改善を図り、幼児の直接体験を通した確かな学びを保証できる指導体制を整える。

(4) オリンピック・パラリンピック教育の推進

様々な競技や世界の国々への興味・関心をもたせる。この機会を指導のチャンスと捉え、「5つの資質」に関連させながら、次の教育活動に重点を置き指導を工夫していく。

○心と体が育つ運動遊び

「多様な動き、体力向上、自分で自分の身を守る、ルールのある遊び、基本的な生活習慣、自立心と協働性を重視」

○日本人としての自覚と誇り

「あいさつ、返事、靴を揃える、礼、正座、ものを真っすぐ見る、なぎなた など」

○人と共にあることを楽しむ保育(学級、学年の枠をこえた保育)

「他者への関心や思いやりの気持ち、人権感覚」

○様々な国の、人や文化に関心をもつ

「絵本コーナーの充実、見る、触る、遊ぶ、世界を知る」

(5) 働き方改革の実現

教師が元気で、笑顔で、前向きに保育ができることが最も大切である。子供にとって最大の教育環境は教師自身である。皆が仲良く互いに思いやり、温かな教師集団の力(チーム力)は何倍にもなり、園の教育力向上につながると確信する。

・教職員の働き方の意識改革をマネジメントする。

(原則定時退勤、遅くとも午後7時には退勤。長期休業中は定時退勤を厳守)

・会議は始まりと終わりの時間を明確にして、時間を守って効率よく進める。(担当は事前の準備、段取りを考え提案、確認をする)

・ワークシェア(全員が動く仕組みをつくる)声を掛け合い、手が足りないところや遅れているところなどをフォローし合う。

(6) 幼児教育の発信 受信 交信

保護者、地域、協働推進課等、多くの大人が幼稚園の教育に関わり、社会全体で子供を育てる体制づくりをする。幼稚園で大切にしていることを発信するだけではなく、保護者や地域が幼稚園に何を求めているかを的確に把握し、パートナーとして共に子供たちの育ちを支える協力体制をつくる。保護者が幼児と共に活動する機会の充実と保護者や地域にも見える特色ある教育活動の展開をしていく。また、港南アカデミー(芝浦小学校、港南幼稚園・小学校・中学校)での保育参観や協議会で、「遊び」の意味や学びについて他校種の教員に解説をしたり意見交換をしたりする。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について小学校の教員と共有し円滑な接続を図る。